

平成29年6月1日 全校朝礼 講話要旨

今日は三つのことを話します。

一つ目 AI人工知能に出来ないこと

先週4日間、東京へ行って全国の高校の校長が集まる会議に出てきました。文部科学省は、明治以来の教育大改革を本気でやろうとしている。

なぜか？

それは、急激なAI人工知能の急激な進化、グローバル化、少子高齢会による人口減少が大きな要因です。

予測できない世界の急激な変化の中では、知識だけ蓄えたいいわゆる「クイズに強い人間」では、この資源のない日本は生き残れない。

自分で課題を見つけ、自分で解決案を考えられる人間じゃないとダメだということ。

いよいよAI人工知能は囲碁や将棋の世界で名人に勝ち始めた。進歩が著しく、学習できるAI人工知能に進化しつつある。

これからは、単純な業務しか出来ない人は不要になるという恐ろしい予測が出ているが、AI人工知能が解を出せないときにこそ、人間の力が発揮されるようになるだろう。

それは「創造する力」すなわちクリエイティブなこと、「リーダーシップ」、「複雑な交渉」などだが、それさえも身につける人工知能が生まれて、本当にロボットに人類が支配される時代が来るのかも知れないと恐ろし限りである。

これからはクイズに強いだけでは話にならない。今は、分からなければスマホに話しかければ瞬時に教えてくれる。これからは自分の意見をしっかりと持った上で、意見をまとめ、人を動かすことのできる人が必要である。

私は年取って、もうすぐ社会の最前線から消える身だが、君たちはこれから。自分の意見をしっかり持ち、それを「話し言葉」と「書き言葉」で表現することが大事。意見を持つためには、色々なことを経験する必要がある。様々な経験こそが生きた力になる。一步も二歩も踏み出してほしい。

「限界突破、玉商無限大 NEVER GIVE UP!!」

二つ目 「さわやかなあいさつ」

身につけて欲しい資質九つの中に「さわやかにあいさつ出来る」をあげた。

昨年12月に亡くなったノートルダム清心女子大学の元学長 渡辺和子先生 の書かれた本でベストセラーになった「置かれた場所で咲きなさい」の中に「あいさつ」にふれた箇所がある。「あいさつ」は、相手の人が自分にとって大事な人だと伝える方法だというようなことが書いてある。

確かに、自分が大切に思っている人には笑顔で「あいさつ」する。例えば、仲の良い友人にはそうするだろう。

逆に言うと、相手から「あいさつ」されなかったら、自分のことを大切に思っていないという証明になってしまう。

そして、ただ「あいさつ」すれば良いというものではない。相手の目も見ず、ぶすつとした態度で小さな声で「あいさつ」する人がいる。こんな「あいさつ」なら、しない

方がましかもしれない。

渡辺和子先生は、こんな事も言っている。

「不機嫌は立派な環境破壊である。」

朝の「あいさつ」で、声をかけられた時に目も見ず、ぶすつとした印象で小さな声で「あいさつ」を返されるとこちらは気分を害す。眠いとか、体調不良とか、大儀だとかいろいろあるだろうが、なんとか踏ん張って相手の目を見ながら笑顔で「あいさつ」して欲しい。それが、相手のことを大切に思っているよという気持ちとして相手に伝わるのです。

「さわやかなあいさつ」と言っている。この「さわやかな」が重要なのだ。

それと「先（せん）」をとること。これは剣道の教えで、「先」すなわち「さき」に動くということ。「あいさつ」は先にした方の勝ち。あまりに遠くから大きな声でするものもいかなものだが、「あいさつ」では「先」をとろう。

明日から、「爽やかにあいさつ」してくれることを期待している。

三つ目 近江商人の「三方よし」

2・3年生は、何度も聞いている。1年生に私から話すのは初めて。もう既に先生方から教えてもらっているだろう。

今の滋賀県はかつて、近江の国と呼ばれていた。その商人の教えを「近江商人の三方よし」という。

「売り手よし」・「買い手よし」・「世間よし」の三つの「よし」です。

完全な自給自足の生活でない限り、必ず商売が成り立つ。その商売には、当然のことだが、商売倫理が存在する。簡単な一言で言えば「誠実」さです。

商売するのだから「売り手よし」じゃないと続かない。要するに売り手が儲かるとうことです。

そして二つ目「買い手よし」じゃないと、その商売はすぐに続かなくなる。商品を買ったりサービスを受けることで、買った人が喜びを感じられるのでなければ、その商売は誠実ではない。

そして三つ目、これが最も大切。「世間よし」である。今の言葉で言えば、「社会貢献」だ。その売り物やサービスが社会にとって有益でなければ、必ずや衰退する。

また、今の社会の仕組みでは、商売で儲ければ儲かるほど、国や県や市町村に税金が入ってくる。儲けることだけでも社会に貢献している。また、儲かると事業が大きくなって人手が必要なので、雇用が増える。要するに働き場所が増える。これもまた社会貢献です。今、地方がどんどん衰退していっているのは若者の働き場所がないからです。

この三つの「よし」が揃ってこそ、世間から受け入れられて持続可能な商売になり得る。自分たちが儲かりさえすれば良いなどと考えている会社は寿命が短いことは歴史が証明しているのです。

しっかりとこのことを頭に入れて日々の生活を、本校の校訓どおり「誠実」に「勤勉」に「礼儀」正しく過ごしてもらいたい。